

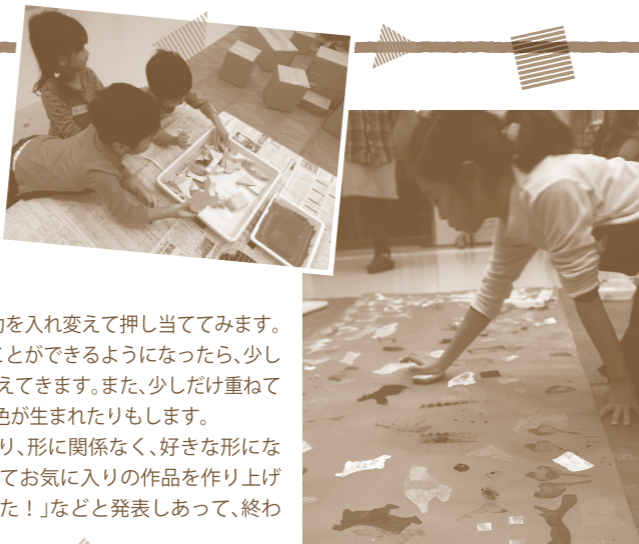
一日講座「木っ端deスタンプ」

2018年11月4日(日)・12月2日(日)

美術館のアトリエでは、いろんな創作ができますが、その一つとして糸鋸があります。利用者の方が飾りやパズルなど様々なものを作られていて、その際に不定形の木っ端が生まれます。その何の形でもない木っ端を使って、一日講座「木っ端deスタンプ」を開催しました。

ハンコとして作られたモノではないので、押すのも一苦労です。右や左、上、下と丁寧に力を入れ変えて押し当ててみます。木の模様が写ったり、真ん中が写らなかつたりと癖のあるハンコです。一つを上手に押すことができるようになったら、少しだけ重ねて押ししてみます。その時に色を変えたり、形を変えたりしてみると、違った形が見えてきます。また、少しだけ重ねて同じリズムで押ししてみると模様が出来上がってきます。重なった色で混色されると新たな色が生まれたりもします。

ダンボールに試し押しをした後、ボードで各々の作品を作りました。転がしてみたり、形に関係なく、好きな形になるまでポンポンと押し続けて面を作ったり、木っ端で擦ってみたりと色んな工夫をしてお気に入りの作品を作り上げました。出来上がったボードを見せながら、「ピンクが好き!」「海の中の生き物を作った!」などと発表しあって、終わりました。(田代 亜矢子)



土曜講座 Saturday

みなさん、ご存知ですか? 愛媛県美術館では、「土曜講座」が開催されていることを!

「土曜講座」とは、その名の通り毎週土曜日14時から行われている講座ですが、愛媛県美術館の学芸員や教育専門員が、様々な視点やアプローチにもとづく講座を行います。経験や研鑽を通じて得たことをはじめ、展覧会で関わった作家の人となりなど、学芸員等でなければ語れないエピソード等についてお話しします。

講義形式の講座もあれば、鑑賞活動、創作活動もあります。今年度の土曜講座をいくつか紹介します。

- ・古今東西の作品を鑑賞しながら考察を行った「古今東西自画像を見る」
- ・二人の巨匠が愛し、追求めた美の世界を、愛蔵の美術品や両者の言葉から読み解いていった『川端康成と東山魁夷』展 プレ講座
- ・古茂田守介展の見どころを学芸員が楽しくガイドした「モリスケみるんみるんツアー」
- ・折り紙で桜などの春の花をつくった『春の花』を折り紙でつくろう!

「土曜講座」は申し込み不要です。基本的に無料ですが、内容によっては観覧券や材料費が必要な場合があります。詳細は愛媛県美術館のホームページでご確認ください。

ぜひみなさん、「土曜講座」にお気軽にご参加ください! お待ちしています!(檜垣 正)



TOPICS 1 「坊っちゃん新聞」刊行



坊っちゃん展の開催に際し、アートディレクションを務めたブックデザイナーの祖父江慎さんによる渾身の坊っちゃん本「坊っちゃん新聞」を発行しました。祖父江さんは、漱石の『坊っちゃん』に強い思い入れを長年抱き、関連書籍はもちろんのこと、作品中に登場する貨幣やお菓子の包み紙まで、あくなき執念で収集を続けてきました。梅佳代さん、浅田政志さん、三沢厚彦さんによる魅力的な作品群と、『坊っちゃん』にまつわる貴重な資料も合わせて千点以上集結した前代未聞な展覧会。その結晶がこちら「なるべく原寸 坊っちゃん 松山版第一号 漱石+祖父江慎」です。愛媛新聞社で印刷した本物の新聞で、こだわりの字体が多数使い分けられ、『坊っちゃん』の全文をお楽しみいただけます。「なるべく原寸」なのは掲載されている関連資料の数々。祖父江さんによるコメント付きです。愛媛発の特別な限定本「坊っちゃん新聞」。当館ミュージアムショップ等で好評発売中です!(杉山 はるか)

ご利用案内

- 開館時間 9:40~18:00(入室は17:30まで)
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。
- 休館日 月曜日
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29~1/3が休館日)



ハトの吉 編集後記

“ケンビ・ヒストリー”の原稿のため、愛媛県美術館の20年を振り返り、出来事の拾い出し作業にとにかくと、あれもこれもとなり予定の文字量をはるかに超えてしまいました。美術館の20年という年月を甘くみていました。(ハト吉)(石崎 三佳子)

TOPICS 2

平成30年度 地域文化功労者 表彰



愛媛県美術館会館をはじめ、愛媛県文化協会副会長、愛媛県美術館協議会副会長など愛媛の文化芸術団体の要職を務められている秋山一夫先生(写真右)が、愛媛の文化振興に多大な功績をあげられたことにより、文部科学大臣から平成30年度地域文化功労者表彰を受賞され、土居忠博愛媛県スポーツ・文化部長(写真左)から表彰状と記念品が伝達されました。

伝達式後、秋山一夫先生はゴッホの絵画から刺激を受け油絵を志すようになったことや、インドの女神像との出会いにより画風を変えたことなどこれまでの画業を振り返られ、受賞を機にさらに美の表現を追求されるお気持ちを強められたことなどを和やかにお話しになりました。

今後もさらにご活躍されることをお祈りいたします。(八木 誠一)

Canforo

愛媛県美術館ニュースNo.57 2019

カンフォロ

愛媛県美術館ニュースNo.57 2019

発行日=平成31年1月10日 編集・発行=愛媛県美術館

愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
http://www.ehime-art.jp/



Canforo カンフォロとは?

イタリア語で「くすのき」を意味します。愛媛県美術館の中庭に立つ3本の大きなくすのきにちなんでなづけられました。

企画展

印象派への旅 海運王の夢

バレル・コレクション 日本初公開の名画の数々。

The Burrell Collection: A voyage to Impressionism. Vision of a great shipowner-collector

2018年12月19日【水】～
2019年3月24日【日】

主催:バレル・コレクション展愛媛展実行委員会(愛媛県、あいテレビ)、毎日新聞社

この展覧会では、英国スコットランドのグラスゴー市にあるバレル・コレクションが所蔵する絵画73点(全て日本初公開)に加えて、同市のケルヴィングローヴ美術博物館所蔵の絵画7点(うち日本初公開3点)を紹介しします。前者は、同市出身の海運王バレルが故郷に寄贈した数千点の美術工芸品コレクションを誇る世界屈指の美術館です。

本展の序を飾るのが、ゴッホのパリ時代の作、《アレクサンダー・リードの肖像》。ゴッホとリードはよく似ていたため、ゴッホの自画像と考えられていたこともある絵です。リードはバレルが絵画収集にあたり最も信頼を寄せたグラスゴーの画商。彼は父の会社の一角で絵の展示販売をしていましたが、やがてパリへ出て、ゴッホの弟で画商のテオの下で修行を積みました。同時代フランスの画家の絵を扱うテオを介して、リードは、ドガやマネら、グラスゴーでまだ知られていなかった画家を知りました。

帰国してグラスゴーで画廊を開いた彼は、モンティセリやクールベのように既にスコットランドで市場性のあったフランス人画家の絵に加えて、無名のドガら印象派の絵も紹介していきます。19世紀にフランスから海を越えて絵を運ぶのはリスクを伴うことでしたので、リードは売れるあてがない印象派絵画を扱うか否か迷っていました。ゴッホはそんな彼に腹を立てていました。しかし、リードは腹を決め、フランス印象派絵画のイギリスへの紹介に貢献したのです。

本展の目玉、ドガ《リハーサル》は、パリの画商プティからテオ、画家ブランシュ、リードの子で画商のマクニールの手を経てバレルの所有になり、その後グラスゴー市へ寄贈されました。他方、《アレクサンダー・リードの肖像》は、テオの妻から子、マクニール、マクニールの子の手を経て、ケルヴィングローヴ美術博物館へ入りました。長い歳月をかけてパリからグラスゴーへ流れ着いた二点の名画をはじめ、芸術文化の都市で大切にされてきたヨーロッパ近代絵画を、存分に味わって頂ければ幸いです。(武田 信孝)

上:フィンセント・ファン・ゴッホ《アレクサンダー・リードの肖像》1887年 油彩・板 42×33cm
グラスゴー、ケルヴィングローヴ美術博物館蔵 © CSG CIC Glasgow Museums Collection
下:エドガー・ドガ《リハーサル》1874年頃 油彩・カンヴァス 58.4×83.8cm
グラスゴー、バレル・コレクション蔵 © CSG CIC Glasgow Museums Collection

THE BURRELL COLLECTION museums



つぶやき



3年振りに美術館の陶芸窯を使う講座『壁掛けミカン』を実施しました。五割増しのご応募があったにも関わらず、定員に満たず(泣)。しかし、和氣葛々、素敵な作品が出来ました。(田代 亜矢子)

つぶやき



12月から美術館内にLEDのイルミネーションを設置しています。夕間から藍色の空にじむライトの灯りがとてもロマンチックです。柔らかな光に美術館の建物の美しさもいっそう際立って見えます。ぜひご覧になってください。(八木 誠一)

